

葛飾区立梅田小学校



4年生の総合的な学習の時間の中で、「手話体験」「アイマスク ガイドヘルプ体験」「車いす体験」を行いました。

「手話体験」では、日常で使うあいさつなどの簡単な手話を教えていただき、実際に手話を使ってあいさつの練習を行いました。また、ジェスチャーでのコミュニケーションをとる体験を行い、思っていることを聴覚障がい者に伝えることは、とても難しいことであると実感していました。

「アイマスク ガイドヘルプ体験」では、アイマスクを付けた児童が友達のガイドを受けながら歩いたり、椅子に座ったりしました。「見えない」という体験は、普段の生活ではなかなか体験することのない貴重な経験です。「見えないからこわかった。」と、体験したことで初めて感じる事ができたようです。ガイドヘルプ体験においては、自分ではうまく指示してサポートしたつもりでも、アイマスクを着用している児童が思うように動けない様子を見て、「えー。なんて伝えたらいいんだろう。」と戸惑う姿が見られました。

「車いす体験」では、車いすに座ったり、介助したりしました。車いすの介助体験では、「段差の越え方を初めて知った。」「段差があると通るのが大変。」と苦戦しながらも興味をもち、体験に参加していました。小さな段差であっても、車いす利用者には大きな障害になることやバリアフリー社会を目指して、共に過ごしやすい環境作りを行うことの大切さを学びました。

体験後は、休み時間に手話を使ってあいさつをしてみたり、「昨日、出かけた時に白杖を持っている人を見たんだ。」などと話したりしていました。福祉体験を行ったことにより、関心が高まり、日常生活の中で今まで気付いていなかった事象に目を向けられるようになったようでした。